「埋蔵文化財ニュース 184号」もう一つの特色

環境考古学研究室では、これまで遺跡の発掘調査報告書に掲載されている花粉分析データの集成を進めてきました。2021年３月末に刊行された「埋蔵文化財ニュース184号」は、花粉分析からみた都城造営と植生変化をテーマに、奈良県・滋賀県・京都府・大阪府の４府県域を特集したもので、各府県域を研究対象としている研究者にご寄稿いただきました。

中身としては専門的な内容ですが、埋蔵文化財担当者と環境考古学に興味のある学生へ向けてのメッセージとともに、長岡綾子氏（長岡デザイン）による美しいレイアウト・デザインによって、手に取りやすく親しみやすい冊子となっているのが、本号のもう一つの特色です。

表紙は、マツ属花粉の顕微鏡写真です。15コマの写真はそれぞれピントが異なっています。研究者はピントを少しずつ変えながら一つの花粉の形態を観察します。次頁にはプレパラートの写真があります。土から抽出した花粉は、このようにスライドガラスとカバーガラスの間に封入して観察します。じつは表紙から２・３頁までは花粉分析の一連の処理方法を遡るようなイメージになっています。また、４・５頁は同定の際に比較するためのさく葉標本と現生花粉標本で、奥付の頁は、分析で使う道具の一部を並べています。

試料の処理方法や道具類は研究者によって多少異なり、ここでは厳密に示していませんが、ふだん表に出ない部分についても、興味関心を持って読んでいただければ幸いです。

（埋蔵文化財センター　上中 央子）

埋蔵文化財ニュース184号（2・3頁と奥付頁）